

教科名	美術	校種	高等学校
-----	----	----	------

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など, 授業の形態
1年				
2年	美術Ⅰ	選	2	
3年	美術Ⅱ	選	2	

科目名(教科名)		美術 I (美術科)			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	1. 油絵の技法や道具・材料について知る。また西洋絵画の基本的なものの見方について学ぶ。 2. 縄文土器から縄文人の美意識を理解し、その精神を反映させた土器制作に挑む。 3. 長い時間をかけて1つの作品に取り組むことで、見通しや準備といった計画力・調整力を養えるようにする。				
学期	授業の項目		内容		
1学期	・描画材と表現(絵の具を知ろう) 教科書PP14～15 ・風景画(一本の樹) 教科書PP18～19 <鑑賞>		・近・中・遠景を意識した絵画を油絵で制作する。 ヴァールール、パースペクティヴといった西洋絵画の基礎的な考え方にに基づき、空間感・奥行き感のある平面作品を目指す。最終的には、空間内に存在するモチーフを描き分けることで、その場に存在する「空気」を描くことを目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。		
2学期	・思考に形を与える1・2 教科書PP06～09 <鑑賞>		・陶土塑像による土器を制作する。 縄文土器の表現的特徴やその精神性を知り、自らの作品でそれらを具現化する。単に工芸として土器を作るということではなく、「縄文の精神」そのものを彫塑することを目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。		
3学期	・描画材と表現(絵の具を知ろう) 教科書PP14～15 ・人物画(自分を描く、愛する人を描く) 教科書PP22～23 <鑑賞>		・油絵で人物の胸像を描く。 油絵の下塗りや質感を生かした描写を目指す。モデルの表面的な似顔絵に終始するのではなく、色彩でモデルを造形する意識を持って制作にあたる。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。		
評価の観点	【知識・技能】(30%)	造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。	・課題作品に対するエスキース、コンセプト、下図、プラン等		
	【思考・判断力・表現】(40%)	表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	・課題作品を具現化する際の準備、工夫、試行錯誤、臨機応変等		
	【主体的に学習に取り組む態度】(30%)	主体的に絵画・彫刻等の表現の創造活動に取り組もうとしている。	・制作態度・課題作品の提出		
評価の方法と割合	●評価方法： 作品点、制作点、平常点を総合して成績を算出する。 ●割合： 制作点30%、作品点40%、平常点30% ただし、作品提出がない場合は作品点、制作点を0点とする。				
教科書・副教材等	●教科書： 高校美術 I (日本文教出版)				

科目名 (教科名)		美術 II (美術科)			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	1. 油絵の技法や道具・材料について知る。また西洋絵画の基本的なものの見方について学ぶ。 2. 縄文土器から縄文人の美意識を理解し、その精神を反映させた土器制作に挑む。 3. 長い時間をかけて1つの作品に取り組むことで、見通しや準備といった計画力・調整力を養えるようにする。				
	学期	授業の項目	内容		
1学期	・グラフィックデザイン (希望をかたちに) 教科書PP44～45 <鑑賞>	・「孔版画」を制作する。 孔版画による、画筆描写では表現できない画面を意識する。 孔版画特有のマチエール等を意識的に用いることによって、変化に富んだ作品を目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。			
2学期	・機能とデザイン (機能を考える) 教科書PP46～47 ・絵画の主題 (美術とともに生きる) 教科書PP08～09 ・主題と表現 (クリスティーナの世界) 教科書PP20～21 <鑑賞>	・日本の伝統技法や美意識によって生まれた、工芸の美を味わう。 陶土による「抹茶碗」を手びねりで制作する。成形後、乾燥を経て、素焼き、施釉、本焼きする。 ・自画像を制作する。 高校3年間で培った美術的感性・技術を総動員し、「現在の自分」を象徴的に表現する。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。			
3学期	美術にかかわるということ	・2学期に制作した抹茶碗で、茶会をし、1年を締めくくる。			
評価の観点	【知識・技能】 (30%)	造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。	・課題作品に対するエスキース、コンセプト、下図、プラン等		
	【思考・判断力・表現】 (40%)	表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	・課題作品を具現化する際の準備、工夫、試行錯誤、臨機応変等		
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	主体的に絵画・彫刻等の表現の創造活動に取り組もうとしている。	・制作態度 ・課題作品の提出		
評価の方法と割合	●評価方法： 作品点、制作点、平常点を総合して成績を算出する。 ●割合： 制作点30%、作品点40%、平常点30% ただし、作品提出がない場合は作品点、制作点を0点とする。				
教科書・副教材等	●教科書： 高校美術II (日本文教出版)				